

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	沖 縄 県
-------	-------

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	沖縄市立 宮里小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	4	4	4	5	4	2	28	33
児童数	167	156	134	162	177	157	8	961	

研究の概要

1. 研究主題

児童一人ひとりに基礎的・基本的な内容を定着させるための指導の工夫 - 習熟の程度に応じた学習指導・教科担任制を通して -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

教科担任制 実施学年及び教科 6学年〔国語、社会、体育、理科(校種間交流)〕 小学校から中学校の指導システムへ、スムーズに適応できるようにするため6学年で実施した。 児童の学習の定着に個人差が出やすい教科において実施した。 習熟の程度に応じた学習指導 実施学年及び教科 3・4・5学年 算数科 児童の基礎基本の定着に個人差がある算数で実施した。 3、4、5学年での学習内容につまづきが多いため、3、4、5学年で実施した。

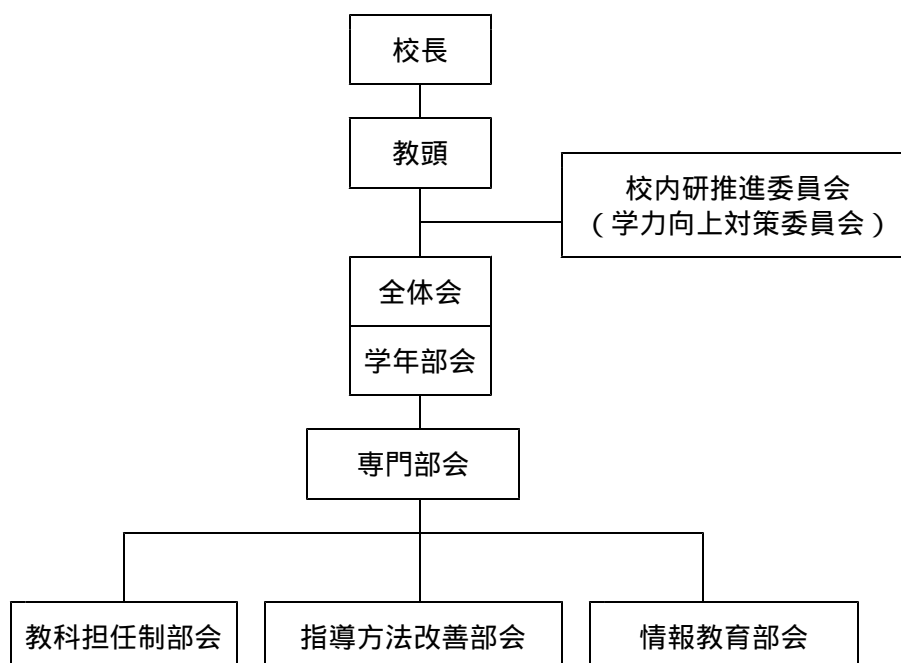
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	児童一人一人に基礎的・基本的な内容を定着させるための指導の工夫 研究の見通し 国語科、社会科、体育科、理科において教科担任制を導入し、指導改善や教材開発の工夫をすることにより、児童の興味関心を高め、基礎的・基本的な内容の定着を図ることができるであろう。 学習課程において、習熟の程度に応じた学習指導の工夫をすることにより、児童の興味関心を高め、基礎的・基本的な内容の定着を図ることができるであろう。 研究の内容・方法 教科担任制の効果的な在り方 習熟の程度に応じた学習指導の方法・指導体制の工夫改善 教材・教具の開発
--------	---

平成16年	テーマ 児童一人ひとりに基礎的・基本的な内容を定着させるための指導の工夫 研究の見通し
-------	---

度	<p>高学年において教科担任制を導入し、指導改善や教材開発をすることにより、児童の興味・関心を高め、基礎的・基本的な内容の定着を図ることができるであろう。</p> <p>習熟の程度に応じた学習指導や少人数指導等の個に応じた指導を創意工夫することにより、基礎的・基本的な内容の定着を図ることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 教科担任制の効果的な在り方 習熟の程度に応じた学習指導、少人数指導等の方法・指導体制の工夫改善 教材・教具の開発</p>
---	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

教科担任制

児童へのアンケートの結果より

国語、社会、体育、理科のどの教科でも、今までの学習に比べ、本年度取り入れた教科担任制の学習はとても好き、好きの項目が増えており、児童の学習における興味関心が高まった。

児童の声より

- ・授業がわかりやすく工夫されていて楽しい。
- ・ますます国語が好きになった。
- ・自分のレベルにあったコースで練習ができ泳げるようになった。
- ・実験の意味がとてもよく分かるようになった。「なるほど」と思うことが多く楽しい。学級の枠を越えた学年経営ができた。

習熟の程度に応じた学習指導

児童へのアンケート結果より

3・4・5学年とも、学習がよく分かる、分かると答えた児童が50%を越えた。4年生では算数が得意になったと答えた児童が76%にのぼった。

児童の声より

- ・自分に合ったペースで学習ができる。
- ・少ない人数なので質問しやすい。集中しやすい。
沖縄市基礎学力検査にみる児童の変容（前年度基礎学力検査との比較）
- ・学年平均40.1点で、目標の40点をクリアすることができた。（3年）
- ・正答率50%以下の児童が5% 3.2% 約1.8%の減少（4年）
- ・学年平均で3.8ポイント上昇している。下位児童を大幅に減らすことができた。正答率15%以下の児童は167名中2名となった。
低学年において、保護者のボランティアを活用することにより、よりきめ細かな学習指導を図ることができた。
他の学級の児童とも関わるので、学年経営に役立った。

2. 今後の課題 教科担任制

専門的教材研究を深め、より個に応じた指導を図る必要がある。
全クラスを1人の教科担任で指導する方法から2人で分担する方法など、弾力的な教科担任制の在り方の検討が必要である。
個々の児童の実態を把握できるような評価の工夫。
効率的な時間割りの編成。

習熟の程度に応じた学習指導

中位の児童の個人差への対応と上位の児童の発展的な学習の進め方と教材開発。
加配教諭との指導方法等の共通理解を図るための時間の確保。
担任として学級全員の学習状況が把握しにくい。個々の児童の実態を把握するような評価を工夫する必要がある。
学習環境の整備。
最大5教室で同じ時間に授業を行うので、学習備品が不足しがちである。

学力等把握のための学校としての取組

検定（算数）・・・検定を作成し、治療の手段の一つとして活用する。

ア 5～10問、朝の時間で実施する。

イ 毎週火、金の朝の時間を利用し実施する。

到達度テスト

ア 国語 中間・・・その時点まで習った漢字のテスト

期末・・・学期で習った漢字のテスト

配当漢字反映させたテストを一年を5回に分け、作成する。

イ 算数 中間・・・その時点までに学習した「数と計算」の領域のテスト

期末・・・その学期で学習した「数と計算」の領域のまとめテスト

到達度テストは、国語（漢字）、算数（数と計算）を、毎学期の中間と期末に実施し、既習事項の定着を確かめる。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

沖縄市学力向上対策実践報告会（拡大授業研究会）を実施した。

実施日：平成15年11月26日（水）

対象：沖縄市内小学校教諭 保護者

目的：わかる授業や参加する授業、基礎学力の定着を図る授業についての提案授業を行い、分科会を開くことにより、学力向上の推進を図る。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無